

平成30年度 全国学力・学習状況調査（横浜市の結果）

平成30年4月17日に横浜市立小学校※6年生（約2万9千人）、中学校※3年生（約2万5千人）を対象に実施された全国学力・学習状況調査結果の概要をお知らせします。 ※義務教育学校、特別支援学校を含む

《 教科に関する調査結果 》

◎調査結果からみる本市の特徴 Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題です。

- ・ 全ての調査結果において、全国の平均正答率に比べ高いか、同等の状況です。
- ・ 小学校では、国語、算数において、「知識」と「活用」に関する問題いずれも全国の平均正答率に比べ1ポイントから2ポイント高い状況です。
- ・ 中学校では、国語、数学において、「知識」に関する問題よりも、「活用」に関する問題のほうが、全国の平均正答率に比べ2ポイントから3ポイント高い状況です。
- ・ 理科においては、全国の平均正答率に比べ同等か1ポイント高い状況です。

小学校 「平均正答率 (%)」

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
横浜市	73	56	66	54	61
全国との差	+2	+1	+2	+2	+1
神奈川県	70	54	64	52	60
全国	71	55	64	52	60

中学校 「平均正答率 (%)」

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
横浜市	76	63	67	50	66
全国との差	±0	+2	+1	+3	±0
神奈川県	76	62	66	48	66
全国	76	61	66	47	66

※ 文部科学省の公表と同様に、都道府県・政令指定都市の平均正答率は整数値で表しています。また、全国の平均正答率については、文部科学省の許可のもと整数値に直して表しています。

※ 横浜市、神奈川県、全国の値は、公立学校の平均正答率です。

◎調査結果に特徴のある問題

全国の平均正答率との差が3ポイント以上あった主な設問は、次のとおりです。

小学校

- ・ 国語Aの「相手や場面に応じて適切に敬語を使う」設問が7ポイント高い。
- ・ 算数Aの「直径の長さと同円の長さの関係について理解している」設問が5ポイント高い。
- ・ 算数Bの「規則性を解釈し、それを基に条件に合うものを判断する」設問が4ポイント高い。
- ・ 理科の「骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している」設問が10ポイント低い。
- ・ 理科の「電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる」設問が3ポイント高い。

中学校

- ・ 国語Bの「文章の構成や展開について自分の考えをもつ」設問が4ポイント高い。
- ・ 数学Aの「 $6x - 3 = 9$ の方程式を $6x = 9 + 3$ に変形する根拠を等式の性質に着目して選ぶ」設問が5ポイント高い。
- ・ 数学Bの「 $(n-4) \times 3 + n =$ の計算の結果が4の倍数になる理由を、文字式や言葉を用いて説明する」設問が6ポイント高い。
- ・ 理科の「濃度が異なる食塩水のうち、特定の濃度(3%)のものを指摘する」設問が6ポイント低い。

※ 「生活習慣・学習習慣と教科に関する調査結果との関係」を示す項目や「授業改善に向けて」に関する項目については、後日、横浜市教育委員会のウェブページでお知らせします。

お問合せ先

教育委員会事務局教育課程推進室 松原 雅俊 Tel 045-671-3723